

私はこう
考える

幼児期は
「準備期」?

人生の土台 〜六歳の春に向かつて〜

向山陽子

(前私立幼稚園園長)

毎日、子どもたちの中で生きてきた。

幸いにも、生まれてくることを心待ちにされ、愛され、慈しまれてきた子どもたちと、保護者の理解と協力を背景に、子どもたちが遊びに遊ぶ時空を共にしてきた。

子ども一人ひとりが、生きるに値する社会と思える子どもも社会と、喜びを持って、生きていく自分を意識できる子どもに育てることが責務とこの道を歩いてきた。

同じ想いの教師たちに支えられてきた。

はじめに

アルバムを開いた……。

・入園のころの不安げな顔

幼稚園に自分の場所ができるにつれて、表情が増えてくる。「私は楽しい」「私は泣く」「私は?」と感じていく」と体中が語り始め、交信し始める。砂、泥、水、葉、花、チャボやウサギ、積み木、牛乳パック、粘土など、モノや自然とかわり、その力を通して先生と友達とつながり始める。

初めての大きな社会で、人とモノとつながろうとして立ちのぼるさまざまな感情、想い、動く体。

・年中の始めのころ

年少の終わりの誰もが居心地の良かったクラスを解体して、新しい担任、新しい部屋になったころ、

向山陽子(むかいやまようこ)

前大和郷幼稚園園長、元駒場幼稚園園長。現お茶の水女子大学非常勤講師。共著『保育者論』(同文書院)。子ども主体の保育環境、親と育つ幼稚園づくりに努めた。

場を共有して遊んでいてもそれぞれのイメージがちぐはぐなのだろう、今ひとつ顔がさえない。電車のジオラマを作りたいと言ってきたA夫の思いを、担任が積み木で形にした所へ、電車好きたちが、よりどころを求めるように集まったのだけれど……と、あの場の空気を思い出す。

◇ ◇ ◇

積み木に凝る子、動物に凝る子、虫博士、きれいなもの作りに夢中だった子、とにかく体を動かす子……進級時のクラス替えの後、それぞれの興味が面白いように魅かれ合っていた。だからこそか、いざこざは花盛り。教師たちは本当によく、一人ひとりの言い分を聴いていた。

年中時代は幼児教育の要とも思う。

・そして年長

年長になると、誰もが想いをしっかりと持った主人公に育ち、遊びに遊び、教師たちは子どもの中に埋没する。

遊びに遊び、心も体もフル回転。担任たちは、一人ひとりの子どもの心と体について語り合った。

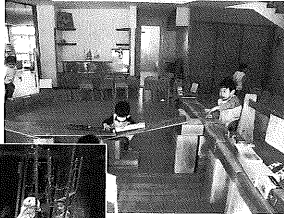
◇ ◇ ◇

六月、隣家の白壁の金具を的に始めた泥玉合戦で泥跡を付けたわんぱくたち。謝りに来た彼らに掃除業者の作業を見届けることを課した。と、胴は作業に向けながら、頭と手足はより高く頭上の枝を的にクラス帽を投げ始めた。課されたことに向き合いなながらも、コントロールを競って投げ合いたい彼らの心と体に気付かされた。

イグアナと共に来園した恐竜博士の「友達」のへびを真剣に観察するB男のまなざしは、草むらの虫を探した年中的ころからさらに探究心を増している。入園時、砂も触れなかったC貴は、運河作りの情報交換を試みて確かめる心と体に育った。

何から何まで子どもたちがつくる、年長の発表会前、人魚の役の衣装を着け、うれしげなD実とE子は、この後、一気に衣装を完成させ、その日の舞台練習で自慢げだった。

年中



▲電車ごっこ…?!



▲畑仕事→カブトムシの幼虫探し



▲指編み on 手作りマット

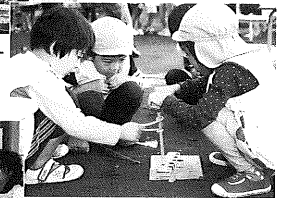
発表会で親たちから温かい声援を浴びて自信をさらに深めた彼らは、最後の行事「子どもバザール」に親たちを招き、幼稚園の生活を喜々として共に遊び、伝える。小学校入学後、友達が出来ないと泣くと母親が相談に来たF子の、友達の中で弾むような姿。あのころのF子がいる。
エピソードの数々、あの子のあの時の、悲しみ、つらさ、悔しさ、ねたましさ、うれしさ、喜びを思い出す。

その時その場を全身全霊で生きながら、自らを育て、互いを育て合っている。

年長



▲クラス対抗リレー
負けないぞ!



▲“火おこし”って
不思議…



▲人魚になるの、私たち



▲子どもバザール準備中

六歳の春を迎えて

写真の子どもたちは語っている。

友達と、仲間と共に在る幼稚園の時空が、心と体の大半を占める。と、六歳の春を迎える。

幼稚園が保護者と共に、充実した子ども集団の日々の中で知情意の育ちを保証すれば、教育方法が異なる小学校でも、始めは戸惑いこそすれ、新しい社会に興味関心を寄せ、よりどころを得、自分を発

揮する事柄を見つけ、新しい出会いを心待ちにして、小学校での学びを楽しみます。環境とかかわり、遊びに遊ぶ生活の中で、子どもたちは小学校での学びの基礎となる力を培う。

- ・よく感じ、よく考え、よく動く心と体
- ・仲間と共に、不思議を探索する好奇心と姿勢
- ・仲間と協働しながら、自分たちの遊びや生活を、見通しを持って創り出していく力

- ・自分の想いを言葉で伝え、よく聴いて、学び合う力
- ・人・モノ・事象とのかかわりの中で、しなやかにたくましく、自己を調整する力

諸事情で育ちそびれている子がいたら、その時こそ、小学校とよく連絡を取り、その子のために連携体制で臨みたい。

最後に

初めての子ども社会でさまざまな体験をしながら、自分を信じ、新しい自分になる喜びに満ちた姿に育つ幼児期は、生涯の土台である。幼児期の育ち

を培った子どもたちは、喜びを持って次のステージ、小学校へ進学する。

小学校は、送付される指導要録抄本を活用し、一人ひとりの、生まれてからの六年間の育ちを深く懐に受けとめてほしい。

幼稚園、保育所、こども園へ

男女共同参画時代、こども園時代へと時代が変わる今、この国の未来を育てる幼稚園・保育所・こども園の役割は大きくなるばかりだ。幼児期にふさわしい教育方法・教育内容への勇気ある見直しと教育力向上への努力を強く促したい。

保護者を懐に抱きながら、親として育つ喜びに共感しながら。

親御さんたちへ

急がず、焦らず、わが子が一步一步を、一段一段を育ちゆくさまを慈しみましょう。育つ力の芯にあなただけの愛情が、ほら、見えるでしょう。